様式３

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議名
（審議会等名）</td><td colspan="3">令和４年度第１回相模原市文化振興審議会</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局
（担当課）</td><td colspan="3">文化振興課　電話０４２－７６９－８２０２（直通）</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">令和４年１０月１２日（水）　１０時００分から１２時００分まで</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td colspan="3">相模原市役所　会議室棟２階　第９会議室　他</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委　員</td><td colspan="3">１０人（別紙のとおり）</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">０人（別紙のとおり）</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">６人（市民局スポーツ・文化担当部長、文化振興課長、
文化財保護課長、他３人）</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開の可否</td><td>■可　□不可　□一部不可</td><td>傍聴者数</td><td>０人</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開不可・一部不可の場合は、その理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">会議次第</td><td colspan="3">１　開　会
２　議　題
（１）第３次さがみはら文化芸術振興プランの進行管理について
３　報　告
（１）アートラボはしもと再整備事業の進捗状況について
（２）相模原市総合計画推進プログラム事業「中山間地域文化芸術作品展」について
４　閉　会</td></tr>
</table>

議　事　の　要　旨

主な内容は次のとおり。

１　開　会

市民局スポーツ・文化担当部長より挨拶を行い、事務局より相模原音楽家連盟の選出委員が樋口委員から奥山委員に変更になったことを報告した。

また、本日の会議について、奥山委員、篠崎委員、中里委員から欠席の連絡を受けていることを報告するとともに、出席委員の人数が定足数に達していることを確認した。

２　議　題

（１）第３次さがみはら文化芸術振興プランの振興管理について

事務局から資料１に基づき、説明を行った。

(井部委員)学校訪問授業については、昨年はコロナ禍の影響により中止であったり、広い教室で実施するなど制限があったが、今年は９校で実施することができ、昨年度とは違う状況である。今のところ直前になって中止になることもないので、頑張ってやっていきたい。文化事業は、足を踏み入れづらいというか、きっかけがないと入っていけない分野でもあると感じるため、教育や福祉、観光など、違った分野とも連携していくことで、今まで興味がなかった方にも入っていただけるのではと思う。

(大森会長)学校教育の現場も安定してきたという印象がある。活動が少しずつまた元に戻るというよりは、新しい活動も広がってる部分もあろうかと思う。

(鈴木委員)フォトシティさがみはらについても、写真展が過去２年間中止であったが、今年は現在ちょうど市民ギャラリーで行っている。参加者も増えてきており、よい方向に向かっている。回復してきていると感じる。

(大森会長)昨年に比べれば大幅にいろいろな催し物が開催できるということで、プラスの傾向にある。事務局の説明にあったように今年度は外部評価をしていかなければいけない。内部評価が出てから、丁寧に各委員よりご意見をいただいて、皆さんで審議していければいいかと思うが、基本目標Ⅲの次世代の文化芸術を担う人材の部分が、令和２年度実績から令和３年度目標値を大幅に増やしているが、大幅に増やすところで何か取り組みをしているのか。力を入れていこうというところがあったら教えて欲しい。

(事務局)この目標値は、プランを策定する際に決定していたもので、コロナ渦が始まる前に掲げていた数値になるため、ひと桁近く違いがでている。

(杉森委員)評価の使い方として、コロナ渦にあっても市の予算を使うのだから、審議

会の結果などが予算取りなどに反映されていくものだと思う。コロナ渦だから当然だが、今まで通り事業を実施しても同様の実績数を出すのは難しいことを市の議会などは理解してくれているのか。そういう理解がないと、予算が縮小されてしまうのではないかと心配がある。

(事務局)会議結果等は、広く公開し情報提供をしている。経常的なものもあるが、特別に出していきたい事業については議会等でもその予算要求時に個別に説明をした上で、予算を認めていただくという動きになるため、これから具体的に次年度の予算を要求していきたい。

(杉森委員)評価する数値が、当然だが、コロナ前の数値で比較すると、かなり悪い数字になってしまう。前年度比とかあるいは数年前との比較、非常に少ない数字になってしまうと、費用対効果としてどうなのかという意見が出てしまうことが懸念される。こういう状況と説明をしないと予算が削減されて困ってしまうのではないか。コロナ前に戻りつつある中で予算確保に向けて頑張って頂きたい。

(事務局)市全体としても、文化振興に関わらず様々な事業がコロナ渦で縮小している。議会でもある程度の事情は考慮いただいているため、縮小された予算も少しずつ回復していくと考えられる。その分を踏まえて要求をして予算確保に努めてまいりたい。

(井部委員)基本目標Ⅱのところで、多彩な文化芸術を鑑賞する機会の創出は、どうしても実績値が少なくなっている。これからもウィズコロナを考慮した中での事業実施となっていくため、たくさんの人が密集するような事業はやりづらく、目標に掲げていたものよりも、人は戻ってくるが数字的には少なくなるではないか。一つの例をあげると街かどコンサートが以前はたくさんの方に見ていただく形でやれたが、今は制限をかけてやっている。来場者が戻ってくるとはいえ、人が密集するのはあまり歓迎しない傾向は続きそうなため、令和５年の目標値はこのまま変わらずに目標としてやっていくのかを聞きたい。

(事務局)プランの第６章で推進体制のことを記載している。そこではこのプランの計画期間が令和９年度までになっているため、どうしても数値の見直し、事業の一部見直しは発生すると予測をしており、中間年の段階で見直しをすることを記載している。今はまだ３年目なので、ちょうど中間にあたる来年度が終わった段階で見直しを行い、後半の期間に突入していくよう考えている。

(大森会長)数値だけだと、減少という結果が出てしまうと思われるため十分配慮しながら予算など編成して欲しい。どうしても人数制限とか感染対策をすると、積極的な人は参加できるが、子どもたちや立地が遠い方等の機会が減っているため、文化振興の催しの機会を得てもらうように審議会でも案を出していかなくてはいけない。

(上條委員)基本目標Ⅴのマッチングとはどういうものか。

(事務局)市民団体や学校や企業など、市内には様々な団体があるが、それぞれの団体において、いろいろな文化事業や活動を行いたいときに横の繋がりがない、あるいはパイプなどがない場合に、文化振興課やアートラボはしもとがハブとなってその活動を仲介しながら、双方の活動の発展に繋げていくものである。

３　報告

（１）アートラボはしもと再整備事業の進捗状況について

事務局から資料２に基づき、説明を行った。

(金子委員)民間事業者の公募、募集についてはどのように行ったのか。

(事務局)民間事業者の公募については、ホームページや SNS のほかに、PPP や PFI といった官民連携事業を専門にする民間団体があり、その協会に情報提供をしてメルマガやホームページにあげていただいた。内装設計者の公募についても市のホームページ等で掲載しているが、それだけだとなかなか目につかないため、設計プロポーザルの専門サイトの方に情報提供している。

(金子委員)安心した。せっかくこのような建物を作るのだから、公募のされ方とか公平なところで審査して欲しいと思った。

(友田委員)内装設計の公募であるが、方針は事務局で考えたのか。

(事務局)内装設計の部屋の配置については、事務局で案を作っているが、外部の有識者にご指摘をいただいた中で決定してきた。

(友田委員)町田の版画美術館などでは、音楽家によるコンサートもやっていて、いろいろ形でより芸術文化を振興させようとしている。アートラボ後継施設に設置が想定されているスタジオ小でコンサートをするには、面積を踏まえるとスペースが狭いかなと感じた。そこでコンサートってどういうものを想定しているのかということで、むしろスタジオ大の方でもできるようにしておいた方がいいのかなという感じはあるが、その辺のところはどうか。

(事務局)各部屋の面積を目安として記載しているが、全て「程度」という表現にしており、例えばスタジオ小と大をセットで一つの部屋として提案をしてくる設計者がいてもいいと考えている。今回、内装設計は一級建築士の事務所登録を必須としているため忌憚のないご提案をいただきたいと思っている。あくまで我々が必要と求めている機能を設けていただければ1つ1つ部屋を単独で作るのではなく、合わせたりまたはフリーな空間の中でその機能を示したりということを、自由にご提案いただきたいという思いで記載している。

(友田委員)以前、個人的に提案したことだが、今、古民家の方で、いろいろなイベントを行っている。活用していくことでより効果を生んでいくのではないか。その辺を検討していただければありがたい。

(三本委員)建物の具体的な設計が進んでいることは非常にいいことだと思うが、建物の形が決まっていくこと以上に、そこで働く方がどういう形で継続して仕事をされていくか、そこが後回しになってしまうのはよくない。私の記憶では、美術専門員の方が短期雇用の形で入れ替わっており、有能な方がいるにも関わらずその雇用期間の制限で入れ替わっていく、育ってきたところで移ってしまうという現実を聞いている。その辺を市として変えていかなければ文化が育っていかない。人の部分を具体的に今の時点から考えていかなければ建物だけ出来ても機能していかないと思うがいかがか。

(事務局)全くその通りで、事務局も大きな課題として捉えている。具体的には学芸員で、現在、正規としては１人で、あとは再任用の職員ということで運営している。正規の学芸員、あるいは美術専門員をしっかりと配置をして、新しいアートラボを運営できるように人事の方とも今詰めている最中ですので、人材を確保できるように努めていく。

(杉森委員)コンセプトづくりが少し弱い気がする。まちづくりに貢献する総合住宅展示場ということだが、アートラボはしもとのコンセプトが総合住宅展示場ということなのか。

(事務局)アートラボのコンセプトが総合住宅展示場ではなく、この事業全体を運営するファジー・アド・オフィスが再整備事業の方針としてコンセプトに掲げているものである。アートラボは、今まで掲げていた地域との連携であったり、人材育成であったりという目標を踏襲するという別の目標を持っている。

(杉森委員)導入機能について書いてあるが、例えば子供部屋のコーディネートやスタジオの運営は良いと思うが、アートはアートラボの職員が主導してあくまでその連携として、その住宅メーカーの方たちと協力するという立場で進めないといけないと少し心配になった。ラボがどのように関わるのか、早急にコンセプトをきちんとして関わりを詰めて欲しい。主導するのはあくまで人。どういう配置で、どういう立ち位置で関わるかを整理し、独立して運営していかないとせっかく作った建物が生きていかないので、そこをぶれないようお願いしたい。

(大森会長)アートラボはしもとの設立経緯や地域的な特徴も含めますと、まず住宅展示場のユニークさや特徴など良い部分は大事に、例えば地域コミュニティという考え方をとっても、市の方針としてどの辺まで委託するのかっていうところを具体化して、強く持つべきである。ビジョンがアートと繋がっていくとか、文化芸術と繋がるならば問題ないと思う。これが企業体としての動きの入り口になってしまうと大きくそれてしまうのではないか。相模原市全体として機能を簡単には作れないと思うので、この機にそういったところをこれまで所有しているものや、これから作りたいものを整理し、どう入り込むのかを考えて欲しい。あとは、先ほどの人材の件。人材として専門性が必要か、どういった資格が必要かというこ

と、それを持たないのであればそこをどのように考えていくのか。また、先ほどマッチングの話があったが、いろんな意味でハブとしていろいろなマッチングをしていこうというところだったので、人材の確保という想定を含めて、そういった考えを持っていただければというのを感じた。

(事務局)アートラボはしもとの再整備について改めて説明するが、民設公営が大前提で、今のご意見の中であったラボを住宅展示場とともに外部に委託をして運営をしていただくということではない。この建物は、旧マンション販売ギャラリーを再利用した形で、２階はマンションのモデルルームとなっている。ラボの特徴としてそういった部分を使いながら展示活動をやってきた経緯はあるが、再整備をして、より大きな活動ができるようにというコンセプトがある。ラボは独立した形で、今まで以上に自主性を持った形で運営をする予定である。ファジー・アド・オフィスが提案してきている内容については、あくまで先方が住宅展示場を運営する以外に、相乗効果として、お互いのコンセプト案を持ち寄り、共同して事業を行う場合の提案ということなので常に住宅展示場を用いてラボが活動するというわけではない。今まで以上にラボが実践を伴った様々な活動をしていける形になったということである。その上で活動を大きくしていきたいということもあり、人材についても確保して充実を図っていきたいと考えている。説明不足で、業者に全部お任せして、それに従うみたいな印象だったかもしれないがそういったことではない。

(杉森委員)安心したが、企業側にアートがどういうものか理解していただけるように働きかけも必要かと思う。例えば、部屋のコーディネートはアートと必ずしもリンクするものではない。業者の方がわかっていないのではと不安に思うところがあるため、広くアートを盛り上げていくのかという視点から、市で指導というかお願い事項として伝えていって欲しい。

(事務局)本日は、アートラボはしもとの再整備事業でハードの部分の話を報告した。この事業は足かけ６年にわたり取組んでおり、最初の検討段階では、どんな建物を作ろうかではなく、どんな施設に生まれ変わると今より楽しい施設になるだろう、どんなふうに再整備すればいろんな方に使っていただけるだろうという視点から検討を始めた。今回提示した資料にある事業コンセプトは、優先交渉権者が掲げるコンセプトであり、良い提案なのかもしれないが、アートラボが目指しているのはもっと幅広い市民の方に施設をご利用いただきたい、アートラボの良さを知ってもらいたい、できれば今まであまり関心のなかった方にもお越しいただいて知ってもらいたい、そういうきっかけを作っていく施設にしていければと考えている。そういった施設になるためには必要な機能や実施事業、それからどんなお部屋があれば皆さんに選んでいただけるだろうかっていうところから、スタートしている。アートラボについては、今まで市民参加型のワークショップを中

心にやってきた施設で、周辺のアーティストの方々と一緒に事業検討してきた経過があるため、こういった蓄積された部分は残しつつ、今まで子供によっていた形が多かったので、それをもっと間口を広げて事業を展開していこうという方向性も出ている。そのためには、まさに人材の確保が一番大事だと認識しており、それに合わせてハードの部分も同時並行で進めていかなければと、平成３０年から有識者にもご助言をいただきながらここまでステップを踏んできたところである。今回選ばれたファジー・アド・オフィスとは今後２０年間お付き合いをしていく予定で、実施する事業も一緒になって考えていくことを想定しているため、先ほど委員からもお話があったように、アートや芸術に疎い部分もあるかと思うので、市が連携してやりたいことを伝えつつ、相模原市では美術館の基本構想や様々な文化政策を掲げているので、そことの連携というものを見せながら一緒にやっていこうという姿勢を、引き続き取っていきたい。

(金子委員)２０年ということだが、それ以降はどうなるのか。各委員の話を聞き、ワクワクするようなものができそうなのでそれ以降どうなるのかと思い質問した。

(事務局)２０年後については、アートラボはしもと後継施設の周りにあるモデルハウスは取壊し、一度更地にした後に再度事業者を公募する想定でいる。事業をやっていくと当然時代の変化とともに市民が求めるニーズも変わっていく。まずはモデルハウスとして２０年、民間事業者が運営するがその後、再公募をかけて引き続き同社が選ばれれば住宅展示場になりますし、そうではなく、また別の業種の企業が手を挙げて選考されれば、また新しいアートラボとの連携事業が生まれていくという形でまちの発展性を見出していきたいと考えている。

(金子委員)ファジー・アド・オフィスとは２０年の契約だが、アートラボ後継施設はその先もということですね。

(事務局)後継施設部分については、重量鉄骨のしっかりした躯体となるため引き続きその建物を使っていく予定でいる。

(上條委員) モデルハウスは壊すのか。

(事務局)建設イメージ図の真ん中にある建物は２０年後も残る。まわりのモデルハウスは、２０年後に無くなり更地として土地を返却してもらう。なお、現在のアートラボは全部壊して、そこからこの建設イメージ図のような形に作っていく。

(上條委員)アートラボはしもとに行くのはとても遠い。市役所も遠いがバスがある。相模大野周辺の方は行ったことがない方が多いのではないか。大勢の人に知られたいと言うが、交通の便が悪く、駅から遠く、年寄りには行きづらい。

(鈴木委員)民設公営でやるとのことだが、アートラボはしもとの建物自体の所有はどこになるのか。

(事務局)相模原市である。

(鈴木委員)ファジー・アド・オフィスが建築した後に寄贈してもらうのか。

(事務局)そのとおりである。
(鈴木委員)承知した。住宅関係の仕事をしているが、モデルハウスは、陽当たりをよくするため、南側を大きく窓にする場合が多いが、そうすると絵画など良いものを飾ろうとすると日当たりの関係でどうしても飾りにくい。本当は南面を背にとかで飾りたい。そういう提案もするように考えていただくのはどうか。私は生活の中にアートを取り入れてもらいたいという考えで、そういうモデルハウスであれば逆に面白いのかなと思う。

（２）相模原市総合計画推進プログラム事業「中山間地域文化芸術作品展」について
事務局から資料３に基づき、説明を行った。

(上條委員)実施会場が相模湖ということだが、遠くて車がないととても行けない。
(事務局)交通の便については、なかなか不便であり、高齢の方も行きづらいところにあるので、事業実施にあたってはそういった部分を考慮して欲しいという意見をいただいた。確かに本市の特性として緑区から南区までは非常に縦長になっていて、直接そういった会場にたどり着くという交通網が発達していないというのは大きな課題である思う。また、臨時バスの運行についても意見をいただいた。なかなか難しいと思うができるだけ多くの方に緑区を紹介できるような方策を検討していきたい。
(大森会長)非常に難しいところでもあるため、市の総合計画の方などでも踏み込んでいただきたい。話は逸れるかも知れないが本日配布されているイベントガイド、こういったものがあると実際に動くというところでは難しくても、個人の選択として、少し気持ち的に近づくというか、動きやすくなるようなところもあると思う。まずこういったイベントガイドで交通網とかわかりやすく説明していけたらよいのではないか。
(杉森委員)新しい取り組みをやることはとてもいいことだが、企画するのであれば、誰が企画をしたのかキュレーターや学芸員が非常に重要だと思う。
(事務局)今回の事業は、市民ギャラリーの学芸員が企画をしている。キュレーターという位置づけがないが、学芸員を中心に取組を進めているところである。
(杉森委員)新しい試みなので、なかなか職員の中でお互い名前を出しにくいかもしれないが、美術展は誰が企画をしたのかということも非常に重要なので、周知を図って欲しい。実際に企画される方にとっても非常に良いキャリアステップになり、一つの力になると思う。

（３）南市民ホールの集約化に関する方針について
事務局から資料に基づき、説明を行った。

(井部委員)南市民ホールは、私ども文化財団が管理運営をしているところで、集約化ということで他の施設を利用してほしいと言っているグリーンホールの多目的ホールも私どもで管理している。南市民ホールは古いが、使いやすいということで愛着をもって利用されている方もたくさんいられ、パブリックコメントで存続をというような声が上がっている。ですが、先ほど事務局のお話のとおり、全ての方を満足させることはできないと思うため、続けて欲しいなと思っている方に理解していただけるように丁寧に説明して欲しいと思う。

(事務局)今のお話のとおり、長く親しまれてきた施設を閉鎖するということは、ご利用の皆様に多大な影響を及ぼすと考えている。市として、今ご説明した事情はありつつも、皆様の活動がこれからも継続していただけるように、もちろん同じようにというのはなかなか難しい側面もあるが、近隣の施設をご紹介するとともに、例えば、今はいろいろな発表形態があり活動の場などはバーチャルでもできるようになってきた。今の利用されている方々がすぐに移行するということは、当然難しいとは思うが、昨年はそういった発表をする場の補助金などを用意し、市のホームページの活動発表の場に掲載しているということもある。今後とも気軽にご利用いただけるメニューも用意していきたい。なかなか全てをフォローすることは難しいが、そういったソフト面も充実させていけるように、丁寧に説明し取り組んでいきたい。

(上條委員)南市民ホールの建物には、区役所があるがどうなるのか。

(事務局)南市民ホールは、南区役所の建屋の中の一つであるが区役所そのものがなくなることはない。建物全体を建て直しというか長寿命化といってこれから長く使っていくための措置をしていく、修繕をしていくものになるが、南区の全体のあり方の中で、跡地利用というのは、今後、皆様と相談をしながら、ご意見をいただき検討していく。

(大森会長)廃止ではなく、集約化というところで、説明・情報収集等が始まっていると思うので、引き続きよろしくお願いしたい。

4　閉　会

以　上

令和４年度第１回相模原市文化振興審議会委員出欠席名簿

	氏　　名	所　属　等	備　考	出欠席
1	井部（いべ）　弥生（やよい）	公益財団法人相模原市民文化財団 総務課長		出席
2	大森（おおもり）　悟（さとる）	女子美術大学芸術学部美術学科教授	会長	出席
3	奥山（おくやま）　泰三（たいぞう）	相模原音楽家連盟会長		欠席
4	金子（かねこ）　朋沐枝（ともえ）	相模原市文化協会副会長		出席
5	上條（かみじょう）　陽子（ようこ）	相模原芸術家協会会長		出席
6	木口（きぐち）　詠辞（えいじ）	公募委員		出席
7	篠﨑（しのざき）　重雄（しげお）	相模原市民俗芸能保存協会副会長		欠席
8	杉森（すぎもり）　順子（じゅんこ）	桜美林大学芸術文化学群教授		出席
9	鈴木（すずき）　正彦（まさひこ）	光と緑の美術館館長		出席
１０	戸塚（とつか）　厚生（あつお）	相模原市文化財研究協議会会長		出席
１１	友田（ともだ）　幸男（ゆきお）	相模原市民音楽団体協会理事長		出席
１２	中里（なかざと）　和人（かずひと）	東京造形大学名誉教授	副会長	欠席
１３	三本（みつもと）　博子（ひろこ）	公募委員		出席